

小児用肺炎球菌ワクチンの説明書

肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌は、子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を引き起こします。肺炎球菌による細菌性髄膜炎は、ヒブ（インフルエンザ菌 b 型）による髄膜炎より発症頻度は低いですが、重症化します。

接種対象年齢

接種回数・間隔 ⑨接種開始年齢により接種回数が異なります。

◆生後 2 か月以上 7 か月未満で開始（※標準的な接種開始期間）

（初回接種）生後 12 か月未満の間に 27 日以上の間隔を置いて 3 回。

ただし、2 回目および 3 回目が 2 歳を超えた場合は接種しない。

2 回目が 1 歳を超えた場合は、3 回目の接種は行わない。

（追加接種）初回接種終了後、60 日以上の間隔を置いて、かつ生後 12 か月以上に、1 回。

◆生後 7 か月以上 12 か月未満で開始

（初回接種）生後 12 か月未満の間に 27 日以上の間隔を置いて 2 回。

ただし、2 回目が 2 歳を超えた場合は、接種しない。

（追加接種）初回接種終了後、60 日以上の間隔を置いて、かつ生後 12 か月以上に 1 回。

◆1 歳以上 2 歳未満で開始 60 日以上の間隔を置いて 2 回

◆2 歳以上 5 歳未満で開始 1 回

ワクチンの副反応

- 注射部位の症状（赤み、硬結、腫れ、痛みなど）、発熱（37.5℃以上）などがみられます。
 - 極めてまれに、ショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病等が報告されています。
- 予防接種を受けたあと、副反応がおこった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。

受けることができない人

- 明らかに発熱している人（通常は 37.5℃を超える場合）
- 重い急性疾患にかかっている人
- このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応）をおこしたことがある人
- その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた人

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある人
- 過去に予防接種を受けたとき、接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人
- 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人

- 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある人、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- このワクチンに含まれる成分にアレルギーをおこすおそれのある人

ワクチン接種後の注意

- 接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、すぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 接種当日は過度な運動を控え、1 週間は体調に注意しましょう。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。
- 接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。